

高北維新

第68号
秋号

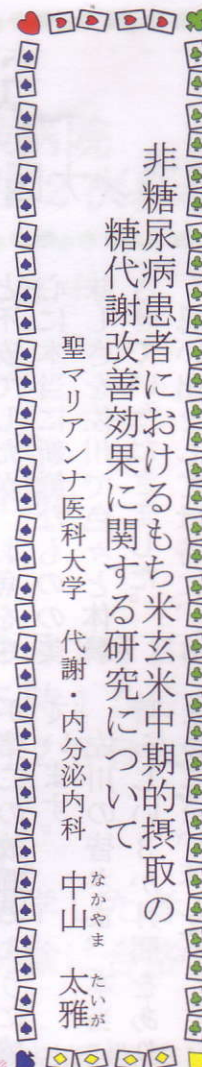


発行日
平成30年
10月30日

この研究は、聖マリアンナ医科大学病院と高北病院との
共同研究で第61回日本糖尿病学会年次学術集会にて発表されました。

非糖尿病患者におけるもち米玄米中期的摂取の 糖代謝改善効果に関する研究について

聖マリアンナ医科大学 代謝・内分泌内科 中山 太雅



平成29年7月～9月の3か月間
高北病院において、『もち米玄米』
という全粒穀物を使用し臨床研究
を施行しました。糖尿病未発症者
を対象に、『もち米玄米』を6週
間継続摂取する群（以下、GBR群）、
および『通常食（白米または白色
パン）』を6週間継続摂取する群
（以下、RD群）の2群に分け、各々
1日2食を摂取していただきました。
各群21名ずつ合計42名の方に
臨床研究にご参加いただきました。

本研究の目標は、GBR群がRD群と
比較して先述の項目で有意な改善
を認めるかを確認することです。
結果、血中の『1,5-AG』という糖
代謝指標に関し、GBR群がRD群と
比較して有意な上昇（改善効果）
を認めました。

今回の採血は空腹時（朝食摂取
前）で行い、空腹時血糖値に2群
の間で有意な差はありませんでした。

た。なぜ1,5-AGが改善したかを考
える際に、空腹時血糖値（食前血
糖値）に有意な差がなかったのだ
あれば、もしかすると食後血糖値
に有意な改善があったのではと考
えました。実際に食後血糖値を測
定できた訳ではないため、推測と
なります。ただし、血中1,5-AGは
食後の血糖上昇を鋭敏に反映する
指標であることが報告され、糖尿
病未発症者にも該当するので、糖
尿病予備軍、境界型の時点でも血
中1,5-AG値に影響を与えることか
ら、今回の研究で食後血糖値が改
善していた可能性は高いと思われ
ます。

体重と食事アンケート調査で異
常食行動スコア（高いと食行動悪
化、低いと食行動改善）におきま
して、GBR群とRD群の間で有意な
差を認めませんでした。これは一
見残念な結果に思われるものの、

視点を変えると、血中1,5-AGの上
昇は、体重の変化や食行動の影響
を受けずに、純粋に『もち米玄米』
の効果であった可能性とも捉える
ことができます。

以上から、『もち米玄米』を1
日2回6週間継続摂取すると『通
常食』の摂取と比較して血中1,5-
AGは上昇することが分かりました。

また、血中1,5-AGの上昇は、純粋
に『もち米玄米』の効果であった
可能性があり、糖尿病未発症者に
対して食後高血糖値の改善の可能
性があること、糖尿病の一次予防
（発症予防）の指標として有用な
可能性があること、が示唆されま
した。

最後になりますが、本研究に携
わっていただきました全ての皆さ
まにこの場をもちまして重ねて御
礼申し上げます。



退任のごあいさつ

聖マリアンナ医科大学 腎臓・高血圧内科

やまだ しょうへい
山田 将平

7月から9月の3か月間、高北病院にてお仕事をさせていただきました。

高北病院では一般内科として診療をさせていただきました。普段は大学病院で腎臓・高血圧診療をメインとしていたことが多く、これまで手広く診療をさせていただくことは久しぶりでしたが、他の先生方やコメディカルの方々に助けられながらお仕事をさせていただきました。

佐川に來た当初は慣れない土地で単身ということもあり、不安もありましたが、生活していくにつれて佐川の住みやすさ、そして町の方々の優しさに触れることができました。食事も色々不安でしたが、お魚を中心になんか新鮮なものの美味しさを佐川で色々体験させていただきました。

思い出としては特に、8

月は「ざつくばらん佐川」のチームでよさこいに参加できたことは一番の思い出となっています。とても暑い日でしたが、チームみんなで踊るよさこいは忘れることができません。今まで

よさこいに参加された先生方が佐川に戻って踊りたくなる気持ちが大変よく分かりました。私も、是非とも今後参加させていただければと思います。

私が医師として何かこの佐川、そして高北病院に残せたものはほとんどありませんが、むしろ様々な経験をさせていただき、勉強させていただいた3か月間だったと思います。

今後当大学、また当科からも医師の派遣があると思います。3か月交代という短い期間でありご迷惑をおかけすることも多々あるかと存じますが、今後とも何卒よろしくお願いいたします。3か月はとても短い時間でしたが、今では佐川が第二の故郷のように感じています。

佐川の皆さま、本当に素晴らしい3か月間をありがとうございました。



赴任のあいさつ

高北病院内科医長

いのうえ
井上 陽子

10月から山田将平先生の後任として高北病院で働かせていただいております。井上陽子と申します。所属は神奈川県にある聖マリアンナ医科大学の総合診療内科で、医師7年目になります。9月までは大学の関連病院である川崎市立多摩病院で勤務していました。

実家の診療所を継ごうと考え、4年前に総合診療内科に入局すると同時に家庭医プログラムに入りました。3年間の後期研修を修了し、昨年、無事に家庭医療専門医を取得することができました。小児から高齢者のプライマリケアを学ぶ中で、半年間の診療所研修や在宅診療も経験させていただきました。病気がだけでなく、患者さんの背景や地域性を考えてマネジメントする面白さや難しさを感じながら現在に至っています。

ところで、高知大学では「家庭医道場」というワークショップが定期的に開催されていると聞いております。ホームページを拝見致しましたが、どの回も

とても興味深い内容だと感じました。現在自分の周りでの



のような会は開催されておらず、家庭医についてあまりよく知らないという医学士や研修医がまだまだたくさんいます。ぜひ機会あれば「家庭医道場」のような会を参考にさせていただき、神奈川へ戻った際には研修医や医学生に向けて何かできたらと思います。

最後に、私は高知県に来るのは初めてですが、おいしい郷土料理やお酒をとてもし楽しい期間ですが、高知の良いところをたくさん見つけて、良い思い出を作りたいと思っています。まだまだ未熟な私ですが、どうぞご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

佐川町立高北国民健康保険病院

平成30年度 償還免除付薬学奨学生 2次募集要項

当院では、償還免除付薬学奨学生を下記により募集します。

1. 募集人員、奨学金の貸与額等

募集人員 1名

貸与期間 学校の正規の修学期間（最長6年間）

貸与額 月額10万円

2. 募集期間

平成30年11月1日（木）～平成30年12月28日（金）

受付時間は、平日の午前8時30分から午後5時15分まで。

郵送による申込みは、簡易書留により、12月28日までに必着のこと。

3. 応募資格

次の要件のいずれも満たしていることとします。

（1）平成30年度に大学薬学部（6年制）に進学した者又は平成30年12月28日までに大学薬学部（6年制）入学試験に合格し、平成31年度に進学が見込まれる者であること。

（2）薬剤師免許を取得後、高北病院において薬剤師業務に従事しようとする者

（3）勉学の意欲が旺盛で心身ともに健全であること。

4. 奨学金の返還

奨学金の利息は、年3%とします。

5. 奨学金貸与の一時停止及び取消し等

奨学生が次に掲げる事由に該当したときは、奨学金の貸与を一時停止し又は取り消すことがあります。

（1）奨学生が大学を休学し、又は停学の処分を受けたとき。

（2）長期にわたって大学を欠席しようとするとき。

（3）その他奨学金の貸与を継続することが不適當であると認めたとき。

6. 償還の免除

次の（1）に該当する場合、奨学金の全部を免除します。

また、（2）に該当する場合は、一部の償還を免除することがあります。

（1）借受者が高北病院において薬剤師業務に従事した期間が貸与期間の2倍に相当する期間に達したとき（全部免除）

（2）借受者の死亡、その他奨学金の償還を免除することが適當であると認めるとき。（一部免除）

※ 詳細は、当院ホームページをご覧ください。高北病院事務局奨学金担当（0889-22-1166）まで問い合わせください。